

高速湾岸線(5期)建設工事

受賞機関 首都高速道路公団

はじめに

高速湾岸線(5期)は、横浜市金沢区並木三丁目から同市本牧ふ頭に計画された延長約14.6km、往復6車線の自動車専用道路である。本路線は、東京湾岸道路の一部として広域的な幹線道路となるとともに、横浜市内の自動車専用道路のネットワークを拡充して、渋滞緩和に資することを目的としている。

事業概要

首都高速道路公団では、高速湾岸線(5期)の建設工事を昭和61年12月に開始した。本路線のうち、北側区間約3.5km及び南側区間約4.1kmの計約7.6kmについては、事業効果を早期に発揮させるため平成11年7月15日に暫定的に片側1車線で部分開通しており、残る“中央区間”約7.0kmを含めた5期全線が6車線で平成13年10月22日に開通した。今回の開通により、横浜市金沢区並木から千葉縣市川市高谷までを結ぶ延長約64kmの高速湾岸線が全線開通したことになる。

事業の特徴

本路線の約9割は高架橋構造であり、街路通行者への圧迫感を軽減するため橋脚横梁と主桁を一体構造とした。

伸縮継手から生じる騒音、振動や補修時の工事規制に伴う交通渋滞の低減を目的として、多径間(3径間~8径間)連続桁形式を採用した。

高速道路沿道の環境対策として設置した高遮音



全 景



高速湾岸線

壁には、運転手に与える閉塞感を緩和するため透光板も採用した。

高速道路利用者の走行安全性の向上や車両走行に伴い発生する騒音の低

減を図るために、新たに供用した約7.0kmの区間については、全線排水性舗装を採用した。

道路構造物の落下・飛散対策として、遮音壁や消防器具などにはワイヤー等の落下防止装置、集水桝蓋にはストッパー等のずれ止め装置など、フェールセーフ対策を施した。

本路線を含めた神奈川線の全料金所にETC対応レーンを設置し、今回の開通と同時にETCが利用できるようになった。

事業効果

本路線の開通により、横浜横須賀道路の釜利谷JCTから本牧JCT間の所要時間が37分から16分へと半減したほか、国道16号等の交通が減少するなど、周辺道路の渋滞緩和に大きく寄与した。

受賞賛助会員 アイサワ工業(株)、安藤建設(株)、石川島播磨重工業(株)、伊藤組土建(株)、岩田建設(株)、(株)ガイアートクマガイ、川崎重工業(株)、川崎製鉄(株)、川田工業(株)、(株)栗本鐵工所、駒井鉄工(株)、(株)酒井鉄工所、(株)サクラダ、佐田建設(株)、佐藤鉄工(株)、ショーボンド建設(株)、(株)昭和エンジニアリング、新日本製鐵(株)、住友重機械工業(株)、(株)銭高組、高田機工(株)、鉄建建設(株)、東亜建設工業(株)、(株)東京鐵骨橋梁、トビー工業(株)、日本橋梁(株)、日本鋼管(株)、日本車輛製造(株)、日本鉄塔工業(株)、日本鋪道(株)、日立造船(株)、(株)福田組、前田建設工業(株)、松尾橋梁(株)、丸紅建設(株)、三井造船(株)、みらい建設工業(株)、三菱重工業(株)、(株)宮地鐵工所、(株)横河ブリッジ、りんかい建設(株)、若築建設(株)



東京湾環状道路図